

126 渡嘉敷ペークー（口）

（十日月）

これはですね、今ある那覇市首里にある龍潭池、ありますでしょう。その池を掘った時に、渡嘉敷ペークーさんは何か作業場の何か、監督だったらしいですよ。それからあの、みんなをよく働かすために、その自分の部下たちに相談して、

「今日はあんたらが一生懸命働いて、やったら早く作業を引き上げて休ますから」と言うて相談して。この渡嘉敷ペークーは頓知の早いもんだから、上司の役人の方に、

「どうですか。わたらの班は今日はずんずんと働かすから、月が上がったらもう作業を引き上げて休ませてくれんか」と願ったらしい。だいたい月というのは晩しか上がらないというみんな頭があるでしょう。昼は上がらないという。

だいたい、月は、十日月ぐらいだったら、だいたい四時・五時ぐらいから上がりますからね。

これから、渡嘉敷ペークーさんは上の上司と相談をやったもんだから、部下の方々に、

「こういう相談になっておるから、一生懸命に働きなさい。今日も月が上がったら、あんたらもう作業引き上げて休ますことになっておるから」と言うたら、みんなだいたいみんな話はわかるから、そしたらみんな一生懸命にやったらいいですよ。

それからもう、十日月は三時、四時ぐらいから上がるもんですから、渡嘉敷ペークーは、その時間になったら上司のほうに話しかけて、

「月は上がっておりますがどうですか」言うて。上司ももう、

「これはやっかいなことになったなあ。別の人は働いておるのに、これたちばかり休ませるわけにいかん」言う。

「それはもう相談だから、渡嘉敷ペークーのようには頭は賢くないもんだから、上司のほうは。」

「もういいだろう。あんたは相談だから、またその代わり一生懸命働いたんだからいいだろう」と、仕事引き上げさせたよ。

類話

字北波平 大城清助

字小波蔵 伊敷ヨシ

字与座 伊敷弘吉